

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：21016
学校名：伏見小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 握力、50m走、ソフトボール投げ	○前回の記録より下回った種目 上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、 20mシャトルラン、立ち幅跳び	○男女ともに、握力やソフトボール投げ、50m走などの記録に向上が見られた。特に男子では握力が、女子では上体起こしや長座体前屈の記録が全国平均や札幌市の平均を大きく超える結果となった。瞬発的な力や上半身の筋力の高まりが伺えた。一方で、20mシャトルランや立ち幅跳び、反復横跳びなどの記録には低下が見られた。持久力や下半身の敏捷性に課題が見られる。
体力・運動能力 <女子>	○前回の記録と同程度もしくは上回った種目 握力、上体起こし、長座体前屈、50m走、 ソフトボール投げ	○前回の記録より下回った種目 反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳び	
運動・スポーツへの意識、 運動習慣	○「運動（スポーツ）をすることが好き」と回答する子どもの割合 R6 男子：74.5%、女子 54.5% R7 男子：71.7%、女子 57.1% ○「体育の授業は楽しい」と回答する子どもの割合 R6 男子：73.9%、女子 57.6% R7 男子：71.7%、女子 54.2%	○体育の授業を除く1週間の総運動時間が60分未満の「ほとんど運動しない」子どもの割合 R6 男子：4.2%、女子 10.6% R7 男子：6.4%、女子 10.8%	○運動や体育の授業が好きや楽しいと思っている子どもの割合は前回の記録をやや下回る結果となった。ほとんど運動しない子どもの割合も昨年度より増えていることがわかった。

三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自らの健康づくりを図る取組の充実
-------	-----------------	-----------------------	-----------------------

具体的な取組	<p>○ICTを活用した学習活動の充実を図る。子どもが自分の姿を見られるように、自他の動きを撮影したものを振り返る機会をつくる。それにより、自分の課題を明確にしたり、友達の動きを取り入れたり参考にしたりすることで資質・能力の向上を目指す。</p> <p>○保健指導では、養護教諭による授業や、手洗い教室や歯みがき大会などの外部講師を招いた授業を実施するなど、学習内容を充実させるとともに日常生活と関連付けられるようにする。</p>	<p>○年間の活動に、休み時間に縄跳び、鉄棒、マット、跳び箱 week を位置付ける。全校で同じ時期に運動週間を設けることで、器具の設置時間を省き、運動時間を確保したり、異学年合同の活動を設定し互いに高め合う場としたりする。</p> <p>○各種運動週間では、ICTを活用し、子どもたちが自分の端末で技の手本となる動画を見られるようにしたり、難易度順に技を提示して段階的に技能の向上に取り組める環境をつくったりする。</p> <p>○休み時間のグラウンド割り当てを各学年2回以上設定し体を動かして遊ぶことを推奨する。</p> <p>○委員会活動を通して、運動に関心をもてるような企画を子どもたち自身が考え実行できるよう支援する。</p>	<p>○道徳教育推進教師を中心に道徳の授業の充実と改善を図る。（自他の心と体を大切にすること、生命尊重などの道徳的価値観）</p> <p>○保健指導の充実。健康教育（からだ・いのち・いきる）の年間計画の中で、「性に関する指導」や「自分自身に関すること」、「人間尊重・男女平等の精神」、「社会的な内容」の学習を位置付ける。</p> <p>○保健指導と食指導を融合し、「もりもりタイム」とし、全校共通の健康教育を行うことで、健康への興味・関心を深め、心も身体も健康に過ごすことができる子どもを育てる。</p>
--------	---	--	--

家庭・地域との連携・協働	○学校評価による児童・保護者・教職員アンケートの活用。 ○水泳学習では、地域のスポーツクラブに指導を依頼。	○スキー学習では、保護者ボランティアを依頼。 ○タグラグビーやボールけりゲームなどの出前授業を依頼。
--------------	--	---